

発展する玉川大学

幼稚園から大学、大学院を擁する学校法人玉川学園。玉川大学はその最高学府に位置づけられます。創立者・小原國芳は、マコトの教育を具現化するため、1929年（昭和4年）、幼稚園・小学校・中学校からなる玉川学園を創立しました。以来、「全人教育」の理想を実現すべく、教育内容・研究施設の充実・発展につくし、現在、多摩丘陵に広がる約61万㎡の広大なキャンパスは幼稚園から大学までの各校舎、研究施設が点在する、総合学園として発展を遂げています。

また国内には神奈川県箱根町、北海道、鹿児島にも教育・研究施設を持ち、農学部の実験・実習などに利用されているほか、カナダにあるナナイモキャンパスは、現地大学との共同プログラムを実施するなど、国際教育、国際交流の拠点として活用されています。

1947年（昭和22年）、旧制大学として最後に認可された玉川大学。設立当初は文農学部でスタートしました。1949年（昭和24年）、新制大学として文学部・農学部を開設後、以降、1950年（昭和25年）には文学部教育学科に通信教育課程を、また1962年（昭和37年）には工学部を開設しました。そして1995年（平成7年）、急激な社会の変化に対応するため21世紀に向けての大学教育改革をスタート。新しいカリキュラムの導入を皮切りに、2001年（平成13年）に経営学部を、2002年（平成14年）には教育学部・芸術学部、2007年（平成19年）にリベラルアーツ学部、そして2013年（平成25年）に観光学部を開設しました。現在は6研究科、1専攻科、8学部17学科に7,000名強の学生が一つのキャンパスに集う総合大学として、社会で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。



■ 学部・大学院構成

